学生受講結果アンケートまとめ

2020 年度

名古屋学芸大学ＦＤ推進委員会

はじめに

名古屋学芸大学では 2007 年度より教育の質を向上させることを目的として学生による「授業評価アンケート」を実施しています。これは FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環であり、教員はこのアンケートを通じて学生の授業の受け止め方(意識)を把握し、授業改善に役立てています。

2014 年度からは「学生受講結果アンケート」へ様式を変更、また 2018 年度からは従来のマークシート用紙利用から WEB 利用へ回答方式を変更して実施してきました。さらに今年度は、新型コロナウィルス感染予防のため、従来の対面型に加えリアルタイム型、オンデマンド型、対面とのハイブリッド型等の様々な形による遠隔授業も導入されてきました。そこで遠隔授業に関する設問を追加し、次の実施要項のとおり実施しました。

なお、集計結果は各授業担当者に返却し、それぞれが授業改善に役立てるとともに、大学全体の集計結果をこの大学ウェブサイトに公表させていただきます。

実施要項

2020 年 7 月 20 日

名古屋学芸大学授業担当者　各位

名古屋学芸大学ＦＤ推進委員会
委員長　堀尾　正典

「学生受講結果アンケート」のＷｅｂによる実施について（２０２０年度　前期）

平素より本学の教育活動にご協力賜りお礼申し上げます。

さて今年度の「学生受講結果アンケート」の実施についてご案内いたします。

２０２０年度もＷｅｂを用いて全科目でアンケート実施いたします。Ｗｅｂ化は、低コストで実施できるメリットがある反面、回答率（回収率）の低下が問題になると言われています。そこで、この対策として本学では、授業内で学生が入力する時間を設けてその場で回答をさせることにしています。

しかし、単なる授業評価作業では本来の授業内容を削ってしまうことになるため、授業全体の振り返りを実施し、達成状況への自己分析、今後の学びについての意欲を促すような、学びの場として実施することとしました。

なお、このアンケートは学生への授業・教育改善を目的とし、大学が義務づけられている FD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環として、また第三者評価の根拠資料として重要な意味を持ちます。こうした事情をご理解・ご協力をお願いいたします。具体的な実施方法等は下記の通りです。

記

１．実施日程

２０２０年８月３日（月）～２０２０年８月３１日（月）（授業第１３週～成績提出締切日）

上記期間内の授業で、学生に各自ポータルサイトから回答入力させてください。

２．アンケート対象とする授業

１教員１授業ではなく、原則として、**全ての専任教員及び非常勤講師の担当する、全授業**をアンケート対象とします。

但し、以下の授業は対象から除きます。

①　一部の集中講義等、上記期間に開講しない授業

②　今学期に成績評価しない（次学期以降に開講期をまたぐ）授業

なお、１授業番号につき、１アンケート（１結果）となります。そのため、同一授業番号の授業を複数教員で担当する場合（オムニバス形式、二人以上の教員が同時に授業に入り複数で担当、クラスやグループ分けして各教員が個別で担当する授業）については、お手数ですが、代表教員（採点担当者）にて、アンケートを実施する担当者・授業回を調整いただき、ご指示ください。（システムの都合上、全担当教員のアンケートの受付、集計は出来かねますのでご了承ください。）

３．効果的な振り返りと実施方法

授業内で時間を設け、学生が各自の学修の振り返りを行い、その場でポータルサイト（Ｗｅｂ）を利用し回答を入力するようご指示ください。なお、ここで言う振り返りとは、授業の単なるまとめだけではなく、

・知識や考え方など、その授業内での学修ポイントを振り返りさせて、思い出しから定着を図る。

・自分自身の学修で、何がだめでどこが良かったかなどを具体的に整理させる。

・それらから、さらに学びを深めるために自分は何ができるのか、すべきかを考えさせる。

など、次の学びに通ずるような自己改善に繋がるものを想定しています。

次頁に学生へ説明する具体的な手順と説明の例を示します。おおよそ次頁のような手順で、学生に説明してください。

説明及び回答（入力）時間は全部で２０～３０分程度を想定しています。

なお、学生へは事前に、回答方法等を記載した案内「学生受講結果アンケート提出について」（添付資料 No.1（学生への案内）参照）をポータルサイトへ掲示し周知しています。参考に添付しますので、必要に応じご活用ください。

４．実施にあたっての留意点

（１）アンケート様式は、授業方法（講義、演習、実験･実習）にかかわらず同一です。

（２）今学期は、新型コロナウィルス対策として遠隔授業を導入しています。そのため、遠隔授業についての設問を追加しています。（添付資料 No.2（設問）（設問⑬～⑭参照）

（３）教員独自の設問を任意に設定することができます。その場合は、板書、Moodle、ポータル、メール等で提示により、学生に周知してください。（設問⑮～⑰参照）

５．アンケート結果の集計と取り扱いについて

アンケートの集計は、外部機関（業者）に委託し次の２通り行います。

（１）各教員の授業ごとの集計（集計結果表、自由記述結果表）

１０月下旬にメールボックス等において、各授業担当教員（複数教員で担当の授業は代表教員）へ返却予定です。教育実践記録集（ティーチング・ポートフォリオ）として、シラバス、「教員振り返り」等とともにお手元にファイル、保管いただき、授業改善の資料としてご活用ください。

（２）授業方法全体および各授業方法別での、大学、学部、学科、教養、教職(学芸員課程含む)単位の集計

（１）とともにＦＤ推進委員会の管理下に置き、調査結果の掌握及び分析等、大学としての組織的な授業改善へ活用します（教務課にて保管）。あわせて学科長等へ提供し、各教員の現状・課題の把握、助言等に具体的に活用します。

６．アンケート集計後のフィードバックについて

集計結果を返却後、各授業担当者にポータルサイトから「授業運営の教員振り返り」にて授業改善計画を提出いただき、それを学生にフィードバックいたします。提出方法等詳細は、集計結果返却時にあらためてご案内いたします（１０月下旬を予定）。

また、大学全体の結果をＦＤ推進委員会にてまとめ、大学ウェブサイト等へ公表します。

以上

＜この件に関するお問い合わせ先＞
教務課（ＦＤ推進委員会事務局）　（内線２２２５）
外線 0561-75-2795、Ｅ㈜：ed-nuas_gr@nuas.ac.jp

≪Ｗｅｂによる学生受講結果アンケート手順と説明例≫

以下、説明例です。＊＊＊の部分は、実施時に各授業に応じて変更してください。

①アンケートの意味の伝達

これから学生受講結果アンケートを行います。このアンケートは、皆さんがこの科目を受講して何を学んだか、何を学べなかったのか、これからどこをより深めていきたいか、など各自が今後よりよい学びにつなげるために振り返りを行うことが大きな目的になります。

当然、誰がどのように回答したかを担当が知ることはありませんし内容によって成績が変化することもありません。皆さんの今後のよりよい学修と授業改善の為だけに利用されるものです。（可能であれば、実際に皆さんの意見を基に＊＊を改善しました、等具体例を挙げて説明する。）

②この授業の狙い（学科ディプロマポリシーと関連して）

まず、この授業の狙いは何であったかを振り返ります。この授業は、学科全体の学位授与方針（ディプロマポリシー）の中の＊＊＊（例　知識理解）の育成が目的でした。そのために、はじめに＊＊＊を学び、＊＊＊について考えました。（など授業内容を概説する）。皆さん、どこがよく学べて、どこがあまり学べなかったですか？興味をもち、より深く学びたいと思える部分はありますか？各自考えてみてください。

③スマートフォン（タブレット、パソコン）等の準備

では、自分のスマートフォン（タブレット、パソコン）を出してください。アンケートは各自のポータルサイトから入力しますので、準備ができた人から自分のポータルサイトを開いてログインしてください。

（参考）

・PC(http://portal.nuas.ac.jp)

・スマホ、タブレットなど（http://portal.nuas.ac.jp/s）　QR コード

④学生入力

ポータル画面メニューにある「アンケート回答」→「学生受講結果アンケート」→「授業評価一覧」と進み、この授業＊＊＊（科目名）を選択したら設問を良く読んで回答を初めてください。自由記述欄もあります。ここもできるだけ書き込んでください。なお操作方法は、ポータル掲示にある「学生受講結果アンケート提出について」にも記載されています。

ネットにつながりにくく入力できない人は、少し間を置いて再入力してみてください。

⑤入力完了後の指示

入力ができた学生は＊＊＊（終了、解散など）してください。

以上

アンケート設問

（2020年度前期） 学生受講結果アンケート

このアンケートはみなさんの学びの振り返りと授業を充実させるためのものです。結果は教育・授業改善のみを目的に使用し、成績には一切関係しませんので、率直にお答えください。
なお、回答の際は、各授業の担当教員からの指示に従ってご回答下さい。

授業を受けた現在、あなたの考えに最も近いと思うものを選択してください。

１．学習目的の理解と達成状況について

①私は、この授業の学習目的（シラバスに記載された到達目標など）について、よく理解・納得している。（必須）

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

②私は、この授業の内容についてよく理解できた／演習によく取り組むことができた（必須）

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

・特によく理解（取り組み）できた部分について、入力してください。（全角100文字以内）

・特に理解（取り組み）できなかった部分について、入力してください。（全角100文字以内）

③私は授業時間外で、この授業のために学習（予習・復習・課題作成など）を十分行った（必須）

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

④（今の考えとして）私は①の学習目的は達成できたと感じている（必須）

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

⑤私はこの授業での勉強（課題）を今後さらに深めたいと思っている（必須）

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

２．授業の運営について

⑥自分にとって、授業に積極的に参加できる学習環境であったと思う（必須）

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

⑦授業で使われた教材（教科書、題材、テーマなど）は自分にとって適切なものであったと思う（必須）

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

⑧成績評価物（テスト、課題、レポートなど）は自分にとって適切なものであったと思う（必須）

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

⑨この授業の学習時間は適切であったと思う（必須）

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

３．自由記述

最後にこの授業についてあなたの考えを記述してください。

⑩この授業で特に良いと思った部分（全角100文字以内）

⑪この授業で改善した方が良いと思った部分（全角100文字以内）
（皆さんの意見で次の学期からの授業がより良いものになります。）

⑫その他自分が気づいた部分（全角100文字以内）
例）学びから自分が気づいたこと、特に理解（取り組み）できなかった部分への対策、この学びの今後への活用など、なんでも自由に記述してください。

４．遠隔学修についての設問

今学期の授業で遠隔学修が含まれていた人はお答えください。

⑬今学期の遠隔学修部分で「良かった」と思えた事はなんですか？（全角100文字以内）

⑭今学期の遠隔学修部分で「改善した方が望ましい」と思える事はなんですか？（全角100文字以内）

５．担当教員独自設問

※授業担当者からの指示があった場合、回答してください。

⑮

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

⑯

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

⑰

○ 5：大変そう思う　○ 4：わりとそう思う　○ 3：どちらかといえばそう思う
○ 2：どちらかといえばそう思わない　○ 1：あまりそう思わない　○ 0：全くそう思わない

設問は以上です。

選択・入力が終わりましたら、右下の「回答」ボタンをクリックしてください。
※スマートフォンからの回答の場合、ボタンはページ最上部に表示されている場合があります。

ご協力ありがとうございました。

回答

本年度 FD 活動を振り返って

１．はじめに

今年の前期は、新型コロナウィルス対策のためほぼ遠隔授業での実施という形態となった。未曾有の事態の中、教職員はもちろん、多くの学生達の頑張りが学生生活を支えていたことは事実である。環境、運営方法などすべてが例年と大きく異なるためアンケート等の結果そのものは大変興味深いものになるが、例年との比較には慎重な分析が求められる。

2. 実施方法について

アンケートの実施方法は、例年同様以下の条件で実行された。

・原則全クラスを対象

・ポータルサイトからの Web 入力で回答

・13 回目から 15 回目の授業内でアナウンス。

教員、学生も手慣れてきているためか、実施について大きな問題は発生しなかったのだが、オンデマンド形式の授業もあり例年のように授業内での完全実施ということはできなかった。このため学生の実質参加率は表 1 に示す通り-1.9%となった。

＜表 1　過去 2 年間における受講結果アンケート学生の回答率＞

	実質回答率
2019 年度	82.1%
2020 年度	80.2%
2 年の増減	-1.9%

3. アンケートと振り返りの実施状況

授業ベースでの参加割合は昨年同様 100%である。また教員は、前年後期と今年前期を 1 年のまとまりとして自分の授業運営について振り返りを記入している。PDCA サイクルにおける A（改善）に相当する作業である。方式は昨年同様、

・従来通り、特定の 1 科目を担当が選び振り返りを記入

・複数科目もしくは全体状況について振り返りを記入

のどちらかを教員が選択するものである。参加率は表 2 の通りであった。

＜表 2　過去３年における授業運営の振り返り記述者割合＞

2020 年度		2019 年度		2018 年度	
提出者数	提出率	提出者数	提出率	提出者数	提出率
238	96%	243	96%	209	94%

4. 肯定評価率の比較

本学では授業成功の指標として肯定評価率を導入している。それは、

・学習目的をよく理解している、の設問で5（大変そう思う）もしくは4（そう思う）に印を付けた学生でかつ

・この学習目的を達成した実感がある、の設問で5か4を付けた学生でかつ

・今後この学修を深めたいと考えている、の設問で5か4を付けた学生

の、全体における存在割合である。

昨年度と今年度前期の肯定評価率の変化を表3に示す。なお、強肯定とは各設問で5を付けた学生、すなわち強く成功を実感している学生の存在率を示している。

＜表3　昨年と比較した全体肯定評価率の変化＞

	肯定評価率	強い肯定評価率
2019年度	56.0%	16.5%
2020年度	56.9%	15.1%
2年の増減	+0.9%	−1.4%

遠隔授業を主として前期であるが、各科目とも大きな変化は見られなかった。ただ、ここ毎年の本学の授業改善値が伸びている点、前期が非日常である意味学生の学ぶ意欲も高かったのであろう点などを考えると、変化無しということは逆に若干のマイナスがあったのかもしれない。ただ、もしそうであったとしても大きなものではないだろう。

ここで気になるのは強い肯定評価率が数%であるが低下していることである。表4で示した授業種類別の変化、表5で示した学部学科ごとの変化でもその傾向はでている。

＜表4　過去3年間における講義種類別の肯定評価率変化＞

（）内が強い肯定評価率

	2020年度	2019年度	2018年度
講義	52.4%（13.0%）	52.1%（14.7%）	41.4%（9.8%）
演習	62.2%（17.5%）	60.6%（18.5%）	53.9%（14.2%）
実験・実習	64.1%（18.9%）	61.2%（18.3%）	52.8%（12.9%）

遠隔リモートを中心にした結果、全体としての成功者の割合は例年と同じであるが、強い成功実感者（所謂上位者）が、若干ではあるが低下傾向が見られる理由としては、

・真面目に学ぶ学生ほど遠隔による不都合を感じやすかった。

・従来手法である程度成果を出せている学生ほど、新しい遠隔手法に馴染めない者がいた。

・遠隔では他学生の動向や結果が見えづらく、自分の結果への立ち位置が分からない。このため相対的な評価が分からず、強い満足感が得にくかった。

と言ったことなどが推測できる（あくまで推測だが）。

上位層の数%の減少に加えて、提出者が 1.9%減少している事から学修に興味を示せなかった層（所謂下位層）も数%増えていることが予想される。このように下位層が増えることは一般的な遠隔授業の傾向としても知られているようである。これらと平均に変化が無かった事実を考えるとボリュームゾーン（所謂中間層）の成功者数自体は増加している可能性が高い。

全体の肯定評価率では特にデザイン学科の健闘が目立った。演習や実習が多い学科にもかかわらず、遠隔授業の特性を上手に活用できたようだ。昨年同期より大幅に成功者割合が増えている。

5. その他の項目について

その他の、「大変そう思う」の比較を表 5 に示す。

＜表 5　2 年間における授業内容の「大変そう思う」の変化＞

	2020 年度	2019 年度
参加できる学習環境であったか	30.6%	37.1%
教材の適切性	32.9%	36.7%
成績評価物の適切性	31.6%	33.9%
学習時間の適切性	35.6%	47.4%

学習環境、教材の適切性で大きな低下が見られている。学習環境は、自宅での孤独な学習環境に対する不満が出ている可能性がある。教材の適切性は、量の問題だと考えられる。学習時間の適切性は、19 年度と 20 年度で設問の意味を少し変えているため単純な比較はできないのだが、問 3 の本人の時間外学習への参加度を問う質問でそれが表されている。その結果を表 6 に示す。

＜表 6　2 年間における時間外学習への積極的参加割合の変化＞

時間外の勉強に積極的に参加←→全く参加していない

	5	4	3	2	1	0
2019 年度	27.5%	35.1%	25.8%	7.9%	2.5%	1.0%
2020 年度	29.3%	39.8%	24.0%	5.1%	1.4%	0.8%
増減	+1.8%	+4.7%	-1.8%	-2.0%	-1.1%	-0.2%

このように 19 年度に比較して全体として多くの学生が時間学習を沢山費やしたと答えている。学生にとって明らかに学習量が多くなっているのである。学生の時間外学習を増やすことは多くの教員が課題にしていたことであるため、ある意味遠隔授業形態が功を奏した結果になったのだが、新型コロナという非日常が学生の心に大きな影を落としたという負の状況も考えなければならない。今後は、1 回の学習内容を単純な 90 分間の学習量として作成す

るのではなく、孤独な自習状態での適切性な学習量と言う尺度も考慮する必要があるのかもしれない。

学生の学習到達指標として 19 年 20 年の成績割合を調査したところ、20 年度は昨年に比較して A+が+1.8%、A が 1.9%と合わせて 3.7%の増加となった。この理由として推測されることは、

・非日常性もあり各学生が純然に頑張った。
・新しい授業形態のため教員の基準が定まらなかったため甘めの採点となった。
・遠隔授業で筆記試験ができず評価方法がレポート等に変わっていた。

と言ったことが考えられる。

しかし全体としては、

・肯定評価率が落ちなかったこと
・学生の学習時間は大幅に増えたこと
・全体の成績分布から A+や A の人数割合に低下は無かったこと

などから、大変な状況下であったにも関わらず大きな教育的損失はなく授業が実施できたのではないだろうか。ＦＤ委員の各教員にも簡単なヒアリングを試みたが、ほとんどの者が例年並みの成績基準であったと回答しており、加えて、教員の手応えとしても成績の中間上位層の学生が増えたと認識している者が多かった。やはり全体として学生の教育効果は例年と比較しても同等以上のものが確保されていると考えて良いようだ。教職員、学生の皆が努力した結果であろう。

6. 今後の課題

今回の学習の成功には重要な示唆が含まれている。環境や学習方法が変化しても、練習量とそれをこなすだけの行動動機が学びの成功に繋がると言うことである。今後も教員はこの 2 点を授業内で如何に形作るかを考えていかなければならない。

一方、今後も学生の意欲が継続していけるのかと言う課題は残る。非日常は日常に変わりテンションは下がっていく。むしろ揺り戻しでもっと落ちていくことも考えられる。学生も、遠隔中心だと他学生の動向が掴みにくいため自分の全体における位置づけや方向性に気づきにくい。遠隔授業は、競争的な雰囲気を敏感に感じ取ってしまい対面での参加に負の印象を持つ学生にはメリットがあるのだろうが、一般にはモチベーションの継続や達成実感は得にくいものになる。つまり今後の遠隔授業成功のためには、教員が遠隔ツールを上手に使いこなすなどして、学生の学習へのやる気を維持・向上させ続けることが必要になる。

今回の急激な社会変化は遠隔授業を急速に普及させた。教員は遠隔授業中心の授業作りを行わざるをえず、遠隔中心の授業展開を考えてきており、これら作業により遠隔授業のメリット、デメリットも少しずつ分かってきた。

・対面授業は、共に学ぶという環境そのものがメリットとなり、学生の学ぶ意欲を継続させやすい。参加型授業の展開などその強みを活かした工夫が今後も必要になる。
・遠隔は、学習意欲維持向上のためには内容や進め方など新たな工夫が必要になる。が、

対面に参加できなかった学生への学習環境として非常に有効な手段となる。

今後のＦＤ活動としても、このようなメリット・デメリットを良く把握した授業改善への提言が求められてくる。

以上

集計結果

・名古屋学芸大学　学生受講結果アンケート集計結果表（大学全体）
・名古屋学芸大学　学生受講結果アンケート集計結果表（講義）
・名古屋学芸大学　学生受講結果アンケート集計結果表（演習）
・名古屋学芸大学　学生受講結果アンケート集計結果表（実験・実習）

2020年度　前期　学生受講結果アンケート　集計結果表 （大学全体）

名古屋学芸大学

集計区分	大学全体

回答者数	20,664

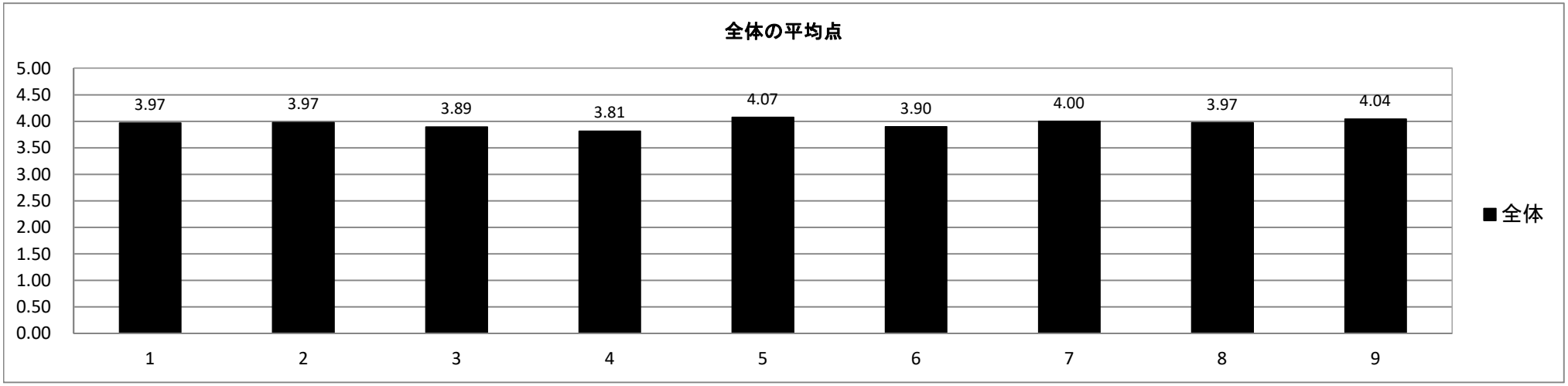
※5と4と回答した比率

No		設問文	回答数と回答率（%） 5.大変そう思う		4		3		2		1		0.全くそう思わない		有効回答	無効回答	平均点 学部	学科	全体	肯定回答率 学部	学科	全体
1	1	学習目的の理解	5,450	26.4%	9,922	48.0%	4,626	22.4%	512	2.5%	128	0.6%	26	0.1%	20,664	0	－	－	3.97	－	－	74.4%
	2	授業内容の理解	5,897	28.5%	9,436	45.7%	4,454	21.6%	670	3.2%	165	0.8%	42	0.2%	20,664	0	－	－	3.97	－	－	74.2%
	3	授業時間外学習	6,052	29.3%	8,230	39.8%	4,953	24.0%	1,054	5.1%	297	1.4%	78	0.4%	20,664	0	－	－	3.89	－	－	69.1%
	4	学習目的の達成度	4,354	21.1%	9,410	45.5%	5,806	28.1%	863	4.2%	194	0.9%	37	0.2%	20,664	0	－	－	3.81	－	－	66.6%
	5	学習をさらに深めたいか	8,040	38.9%	7,354	35.6%	4,322	20.9%	693	3.4%	184	0.9%	71	0.3%	20,664	0	－	－	4.07	－	－	74.5%
2	6	参加できる学習環境であったか	6,324	30.6%	7,945	38.4%	4,852	23.5%	1,098	5.3%	337	1.6%	108	0.5%	20,664	0	－	－	3.90	－	－	69.1%
	7	教材の適切性	6,805	32.9%	8,347	40.4%	4,559	22.1%	656	3.2%	239	1.2%	58	0.3%	20,664	0	－	－	4.00	－	－	73.3%
	8	成績評価物の適切性	6,527	31.6%	8,419	40.7%	4,705	22.8%	699	3.4%	233	1.1%	81	0.4%	20,664	0	－	－	3.97	－	－	72.3%
	9	学習時間の適切性	7,352	35.6%	8,197	39.7%	4,075	19.7%	733	3.5%	229	1.1%	78	0.4%	20,664	0	－	－	4.04	－	－	75.2%
5	15	担当教員独自設問1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	16	担当教員独自設問2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	17	担当教員独自設問3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

学生肯定評価率	率	
学修の成功を実感する学生の割合	56.9%	※1
（その中で特に強く成功を実感する学生の割合）	15.1%	※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2020年度　前期　学生受講結果アンケート　集計結果表 （授業方法別）

名古屋学芸大学

授業方法	講義

回答者数	11,482

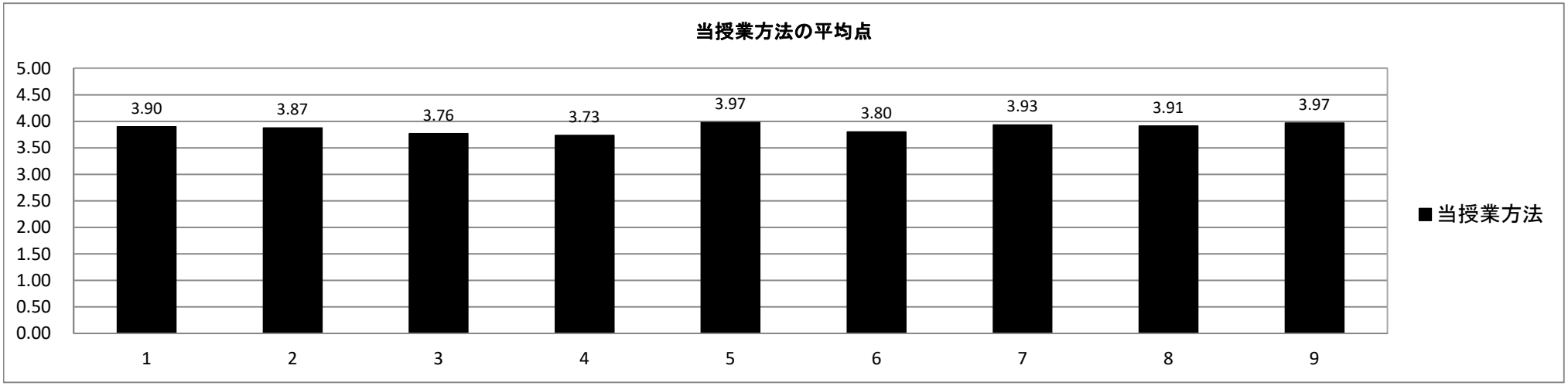
※5と4と回答した比率

No		設問文	回答数と回答率（%） 5.大変そう思う		4		3		2		1		0.全くそう思わない		有効回答	無効回答	平均点 授業方法	学部	学科	全体	肯定回答率 授業方法	学部	学科	全体
1	1	学習目的の理解	2,666	23.2%	5,524	48.1%	2,842	24.8%	349	3.0%	87	0.8%	14	0.1%	11,482	0	3.90	－	－	－	71.3%	－	－	－
	2	授業内容の理解	2,749	23.9%	5,282	46.0%	2,847	24.8%	465	4.0%	108	0.9%	31	0.3%	11,482	0	3.87	－	－	－	69.9%	－	－	－
	3	授業時間外学習	2,768	24.1%	4,579	39.9%	3,103	27.0%	771	6.7%	213	1.9%	48	0.4%	11,482	0	3.76	－	－	－	64.0%	－	－	－
	4	学習目的の達成度	2,093	18.2%	5,095	44.4%	3,582	31.2%	564	4.9%	124	1.1%	24	0.2%	11,482	0	3.73	－	－	－	62.6%	－	－	－
	5	学習をさらに深めたいか	3,908	34.0%	4,212	36.7%	2,723	23.7%	472	4.1%	115	1.0%	52	0.5%	11,482	0	3.97	－	－	－	70.7%	－	－	－
2	6	参加できる学習環境であったか	3,070	26.7%	4,375	38.1%	3,024	26.3%	730	6.4%	218	1.9%	65	0.6%	11,482	0	3.80	－	－	－	64.8%	－	－	－
	7	教材の適切性	3,446	30.0%	4,602	40.1%	2,814	24.5%	431	3.8%	150	1.3%	39	0.3%	11,482	0	3.93	－	－	－	70.1%	－	－	－
	8	成績評価物の適切性	3,314	28.9%	4,674	40.7%	2,864	24.9%	439	3.8%	141	1.2%	50	0.4%	11,482	0	3.91	－	－	－	69.6%	－	－	－
	9	学習時間の適切性	3,733	32.5%	4,609	40.1%	2,442	21.3%	477	4.2%	164	1.4%	57	0.5%	11,482	0	3.97	－	－	－	72.7%	－	－	－
5	15	担当教員独自設問1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	16	担当教員独自設問2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	17	担当教員独自設問3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

学生肯定評価率	率	学部	学科	全体	
学修の成功を実感する学生の割合	52.4%	－	－	－	※1
（その中で特に強く成功を実感する学生の割合）	13.0%	－	－	－	※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2020年度　前期　学生受講結果アンケート　集計結果表 （授業方法別）

名古屋学芸大学

授業方法	演習

回答者数	7,729

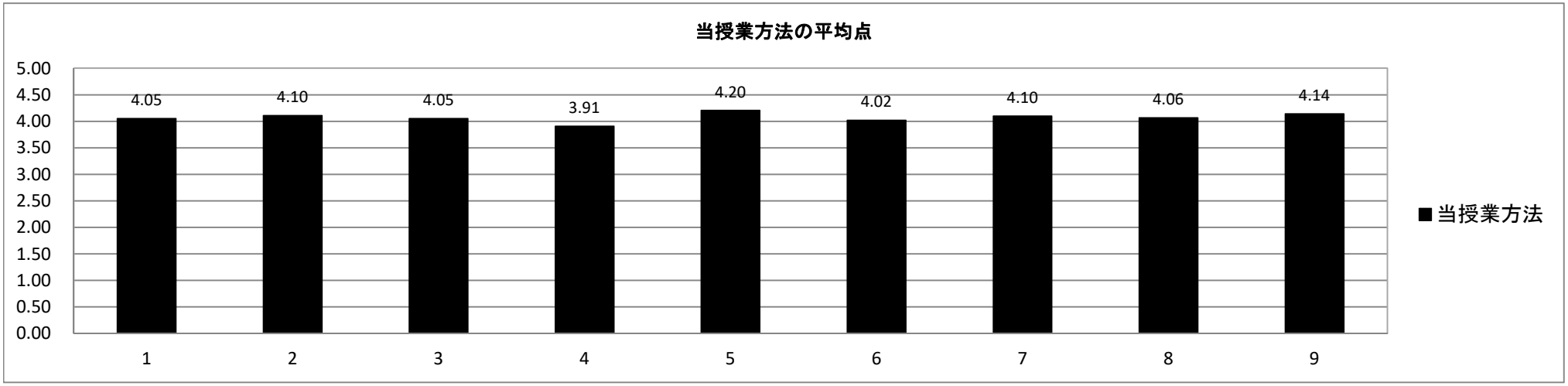
※5と4と回答した比率

No		設問文	回答数と回答率（%） 5.大変そう思う		4		3		2		1		0.全くそう思わない		有効回答	無効回答	平均点 授業方法	学部	学科	全体	肯定回答率 授業方法	学部	学科	全体
1	1	学習目的の理解	2,319	30.0%	3,710	48.0%	1,514	19.6%	139	1.8%	37	0.5%	10	0.1%	7,729	0	4.05	－	－	－	78.0%	－	－	－
	2	授業内容の理解	2,660	34.4%	3,507	45.4%	1,332	17.2%	173	2.2%	49	0.6%	8	0.1%	7,729	0	4.10	－	－	－	79.8%	－	－	－
	3	授業時間外学習	2,735	35.4%	3,096	40.1%	1,560	20.2%	250	3.2%	73	0.9%	15	0.2%	7,729	0	4.05	－	－	－	75.4%	－	－	－
	4	学習目的の達成度	1,890	24.5%	3,631	47.0%	1,878	24.3%	259	3.4%	60	0.8%	11	0.1%	7,729	0	3.91	－	－	－	71.4%	－	－	－
	5	学習をさらに深めたいか	3,510	45.4%	2,619	33.9%	1,335	17.3%	191	2.5%	59	0.8%	15	0.2%	7,729	0	4.20	－	－	－	79.3%	－	－	－
2	6	参加できる学習環境であったか	2,741	35.5%	3,005	38.9%	1,527	19.8%	318	4.1%	102	1.3%	36	0.5%	7,729	0	4.02	－	－	－	74.3%	－	－	－
	7	教材の適切性	2,860	37.0%	3,153	40.8%	1,439	18.6%	182	2.4%	81	1.0%	14	0.2%	7,729	0	4.10	－	－	－	77.8%	－	－	－
	8	成績評価物の適切性	2,731	35.3%	3,186	41.2%	1,503	19.4%	210	2.7%	74	1.0%	25	0.3%	7,729	0	4.06	－	－	－	76.6%	－	－	－
	9	学習時間の適切性	3,086	39.9%	2,988	38.7%	1,367	17.7%	215	2.8%	55	0.7%	18	0.2%	7,729	0	4.14	－	－	－	78.6%	－	－	－
5	15	担当教員独自設問1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	16	担当教員独自設問2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	17	担当教員独自設問3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

学生肯定評価率	率	学部	学科	全体	
学修の成功を実感する学生の割合	62.2%	－	－	－	※1
（その中で特に強く成功を実感する学生の割合）	17.5%	－	－	－	※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。



2020年度　前期　学生受講結果アンケート　集計結果表 （授業方法別）

名古屋学芸大学

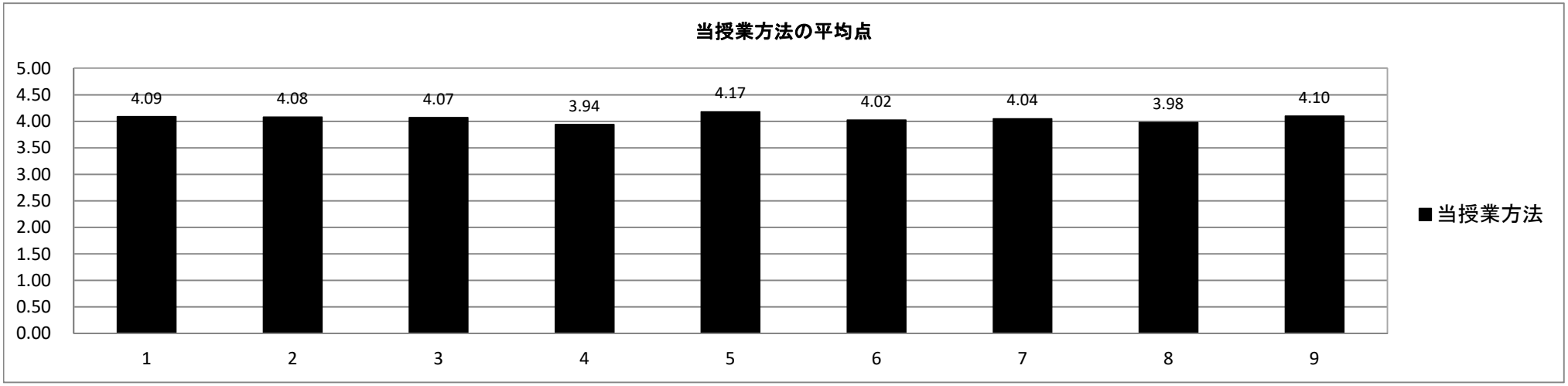
授業方法	実験・実習

回答者数	1,453

※5と4と回答した比率

No		設問文	回答数と回答率（%） 5.大変そう思う		4		3		2		1		0.全くそう思わない		有効回答	無効回答	平均点 授業方法	学部	学科	全体	肯定回答率 授業方法	学部	学科	全体
1	1	学習目的の理解	465	32.0%	688	47.4%	270	18.6%	24	1.7%	4	0.3%	2	0.1%	1,453	0	4.09	－	－	－	79.4%	－	－	－
	2	授業内容の理解	488	33.6%	647	44.5%	275	18.9%	32	2.2%	8	0.6%	3	0.2%	1,453	0	4.08	－	－	－	78.1%	－	－	－
	3	授業時間外学習	549	37.8%	555	38.2%	290	20.0%	33	2.3%	11	0.8%	15	1.0%	1,453	0	4.07	－	－	－	76.0%	－	－	－
	4	学習目的の達成度	371	25.5%	684	47.1%	346	23.8%	40	2.8%	10	0.7%	2	0.1%	1,453	0	3.94	－	－	－	72.6%	－	－	－
	5	学習をさらに深めたいか	622	42.8%	523	36.0%	264	18.2%	30	2.1%	10	0.7%	4	0.3%	1,453	0	4.17	－	－	－	78.8%	－	－	－
2	6	参加できる学習環境であったか	513	35.3%	565	38.9%	301	20.7%	50	3.4%	17	1.2%	7	0.5%	1,453	0	4.02	－	－	－	74.2%	－	－	－
	7	教材の適切性	499	34.3%	592	40.7%	306	21.1%	43	3.0%	8	0.6%	5	0.3%	1,453	0	4.04	－	－	－	75.1%	－	－	－
	8	成績評価物の適切性	482	33.2%	559	38.5%	338	23.3%	50	3.4%	18	1.2%	6	0.4%	1,453	0	3.98	－	－	－	71.6%	－	－	－
	9	学習時間の適切性	533	36.7%	600	41.3%	266	18.3%	41	2.8%	10	0.7%	3	0.2%	1,453	0	4.10	－	－	－	78.0%	－	－	－
5	15	担当教員独自設問1	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	16	担当教員独自設問2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	17	担当教員独自設問3	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－

学生肯定評価率	率	学部	学科	全体	
学修の成功を実感する学生の割合	64.1%	－	－	－	※1
（その中で特に強く成功を実感する学生の割合）	18.9%	－	－	－	※2

補足説明

クロス項目の※1は、「設問1、4、5」で4または5を回答した学生
クロス項目の※2は、「設問1、4、5」で5を回答した学生
について比率を算出したものです。
明確に良い学習をした学生の比率を把握することができます。